資料 2-2

図上演習の開催結果（報告）

令和５年度の九州ブロック内連携体制に係る図上演習を以下のとおり実施した。

【実施概要】

１．日時　令和５年８月 30 日（水）　13:30～16:30

２．場所　八重洲博多ビル　ホールＡ

３．参加者

県　　：８団体 10 名
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

市　　：10 団体 10 名
北九州市、福岡市、久留米市、長崎市、佐世保市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市

有識者　：１団体１名
名古屋大学 平山准教授

事務局　：2 団体 10 名
九州地方環境事務所、日本環境衛生センター

４．参加者の役割分担

参加者は４つのグループに分かれ、以下のとおりの役割分担とした。

＜演習１＞

役割		参加者
被災県	（熊本県）	佐賀県、熊本県
被災市町村	（益城町） （熊本市）	北九州市、福岡市 熊本市
幹事支援県	（宮崎県）	大分県、宮崎県
幹事支援県内の支援市町村	（宮崎市）	大分市、宮崎市
他の支援県	（福岡県）	長崎県、鹿児島県、沖縄県
他の支援県内の支援市町村	（福岡市） （久留米市）	長崎市、佐世保市 鹿児島市、那覇市
九州地方環境事務所		九州地方環境事務所
有識者、オブザーバー		名古屋大学　平山准教授

＜演習２＞

役割	参加者
幹事支援県（宮崎県）	１班：大分県、北九州市、長崎市、宮崎市 ２班：佐賀県、沖縄県、佐世保市、大分市 ３班：長崎県、鹿児島県、熊本市、那覇市 ４班：熊本県、宮崎県、福岡市、鹿児島市
九州地方環境事務所	九州地方環境事務所
有識者、オブザーバー	名古屋大学　平山准教授

５．演習の内容

図上演習は、「役割の理解と具体的な活動内容の検証」、「イメージ醸成と関係者の認識共有」を目的として実施した。また、図上演習における一連の流れは、「大規模災害発生時における九州ブロック災害廃棄物対策行動計画」を基本とした。

図上演習は、大きく、「演習１」、「演習２」に分け、演習１は情報収集について関係者間の連絡を行う演習を実施した。「演習２」は、全員が幹事支援県としてマッチング作業を実施した。

なお、各シーンにおける主な流れは以下のとおりであり、各参加者間の電話やメールでのやり取りを想定したアクションは、図上演習上は電子メールを用いて行った。

＜演習１＞

１）支援可能内容の情報収集

・幹事支援県から支援県に対して支援可能内容の提供依頼

・支援県から県内市町村へ支援可能内容の提供依頼（幹事支援県は幹事支援県内市町村に連絡）

・県内市町村は支援可能内容を整理し、支援県に対して支援可能内容の整理結果を連絡（幹事支援県内市町村は幹事支援県に連絡）
・支援県は支援可能内容を整理し、幹事支援県に連絡
・幹事支援県は支援可能内容を整理し、九州地方環境事務所に連絡（演習では事前に用意してある整理済みの内容を連絡）

２）要支援内容の情報収集
・被災県から県内市町村に対して要支援内容の連絡を依頼
・県内市町村は要支援内容を整理し、被災県に連絡
・被災県は要支援内容を整理し、幹事支援県に連絡
・幹事支援県は要支援内容を受領

＜演習２＞
・幹事支援県は、支援可能内容、要支援内容をもとにマッチング作業を実施。
・技術的な支援内容は九州地方環境事務所に連絡し、対応を要請。九州地方環境事務所は対応内容を返信。
・幹事支援県は、マッチング結果を支援県内市町村、被災県内市町村に連絡する用紙を作成。

６．演習終了後のご意見

○大規模災害時には環境省が主体となって対応してくれると思っていたが、幹事支援県が主体となって動くことを理解できたので非常に勉強になった。

○演習２のマッチングについて、整理されていたが戸惑ったところがあるので大変だった。今後、県内の研修会でも各市町村にも体験してもらってどういう情報が必要なのかは経験してもらいたい。

○演習２の中ではマッチングの作業自体はスムーズに進んだと思うが、その後の調査結果をまとめるところで時間がかかった。様式はこれでいいのか、送ったときに分かりやすい内容になっているかなど、幹事支援県としての責任があるので、分かりやすく支援ができるように、うまくいかなかったところを反省して、今後取り組んでいきたい。

○演習２の集計表については様式ごとに記載の仕方、内容で違いが多少あるので、どこを注意して読み取ればいいのかを考えてマッチングしていく必要があると実感した。連絡用紙に記入する際に、実際の災害時は急いでいると思うが、今日のこの中でも記載ミスが起こりうる状況だったので、転記ミス、エラーが生じてしまうのではないか懸念された。

○本日の訓練結果を踏まえて、普段から関係機関とどのように情報共有しておけばいいのかなどについて、災害廃棄物対策処理計画に入れると改訂が大変であるためマニュアルに記載してもらうといいのではないか。

○本日の訓練はマッチングが１回だけであったが、実際には被災地のニーズは変わり、複数回のマッチング作業が生じることを理解しておくことが必要である。

○マッチングする上で情報をいつまでの段階で区切るのか考えておく必要がある。期限までに返事がない場合は情報が来ていないのかもしれないし、支援できるリソースがないのかもしれない。その段階の情報でマッチングする考え方もあると思う。今後、そのあたりのルールあるいは統一的な考え方を議論した方がよい。

○マッチングに用いる様式について、支援のニーズに対して支援側のリソースを割り当てる手順を想定した時に作業がしづらいものとなっているため、見直しが必要ではないか。

○マッチング作業は大変な労力を要するものであり、普段の業務をしながら行うのは難しい。九州ブロックにおいて、マッチングに必要なリソース（人員）をどのように確保するのか今後議論してもよいのではないか。

○支援体制について、被災地の近くに災害対策本部を設置してマッチング等の支援を行う方法もある。九州ブロックでどのように支援機能を確保していくのか議論が進んでいないところもあるため、今後検討が必要ではないか。